

大草谷津田いきものの里 自然観察会

春の香りを楽しもう

山岸 文子 (千葉市)

日 時：2016年5月1日（日）10:30～12:00 天候 晴

参加者：13名（おとな9名、子ども4名）

担当指導員：藤田英忠、山岸文子

もう日差しはすっかり夏の始まり。連休中にも拘らず観察会にはちょうど良い人数の参加を得た。大草谷津田いきものの里が誕生して10年。この場所での保全活動の様子や注意事項をまず説明する。オオスズメバチも飛んでいるので身を守る術も話す。

黒いビニール袋を3個用意して来た。香りを嗅いで中身を当てるクイズ。全員が正解したのがドクダミの強烈な臭い。オオシマザクラの葉の塩漬けと、レモンバーベナの葉（レモンの香り）は「甘い香りがする」「以前嗅いだことがある」「知っている香りだけれど…」と言いつつも明確な答は出なかった。

「香りだけでは「なく、今日は五感を使って観察しましょう」と、林の中へ案内する。スギ林の辺りでムラサキケマンの実。子ども達が触ってパチパチバラバラ弾ける様子を確かめる。キビタキの鳴りに癒される。葉っぱの上のカタツムリ。藤田指導員がトラマイマイと説明する。

田んぼの近くまで歩くと蛙の大合唱。小さい男の子が「シビレルアオガエルだあ！」と、叫んだ。「鳴いてメスを呼んでるんだよ」わかっているじゃない。名前がちょっと違うけど。で、そのカエルの卵塊のある畦へ。真白いマシュマロのような泡の塊を観察した。アカガエル、ヒキガエルのオタマジャクシも泳いでいる。シオヤトンボの産卵も見られた。ヨシ原の上をツマグロヒョウモンが群舞している。今は沢山の生き物が次の世代へ命を繋ぐ季節。ホオジロの鳴き声、コジュケイの甲高い声も響いた。

おとな達はサンショウの葉の香りを嗅いで筍ごはんを思い出している。そろそろお腹の空く頃か…。

入口広場へ戻って手を洗った後、五感の最後、味覚を体験。ヨモギの草だんご。瞬く間に消えてしまった。

端午の節句の菖蒲湯用にショウブをお土産に持帰って頂いた。毎年このテーマの観察会では恒例で、田んぼ脇の溜池をかつての姿に戻す為に続けている。（増え過ぎたショウブが水面を塞ぎ、ミズカマキリ、コオイムシ、マツモムシ等々が棲めなくなってしまった。）今年は猫車3杯分を堀上げて、漸く1坪程に拡がった池にカルガモの番がやって来た。

しかし、来年の5月の第1日曜日は、端午の節句の後になってしまう。

どうしたもんじやろうのう。

